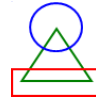


研究所通信



2008年つゆあけ号
藤田佳代舞踊研究所
神戸市東灘区住吉本町1-4-4
TEL・FAX 078-822-2066
Eメール fkmds@muf.biglobe.ne.jp
URL <http://www2s.biglobe.ne.jp/~fkmds/>
JWORDで検索するなら・・・モダンダンス.jp

活動報告

創作実験劇場

2008年3月22日(土) 県民小劇場

「埋み火」 「おどり場」 「memories」 「満ちる刻—マッチ売りの少女の場合」 「ハスミ in Autumn」
「コピー」 「残された記憶」 「キツネノヨメイリ」 「Stargazer」 「ひびく」
出演 寺井美津子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 鎌倉亜矢子 灰谷留理子 萩原陽子 名田麻希子 長谷川千夏 姜未喜
田中文菜 菊原麻衣花 向井万優 三木涼音 渡辺草平 藤林涼香 森口菜月 菊原麻理奈 渡辺菜子 松岡椿 平瀬信勝 (特別出演)

創作実験劇場が無事終わりました。今回の舞台、とても大変なことがありました。プログラム最後の「ひびく」はピアノの生演奏による作品だったのですが、舞台ホルゾントの奥の倉庫のように置いている場所に置いてあるピアノを舞台から客席まで下ろし、終演後は元の位置まで上げたのです。関係者のみで・・・！ピアノの周りに集まる男性陣の熱気と殺気に、我々はそっと遠巻きに見守るだけで手出しできませんでした。・・・するつもりもなかったのですが、スタッフ初め出演者のお父さんたち、友達まで動員してくれたTERU君、出演していたにもかかわらず助けてくださった平瀬先生・・・たちのおかげです。

そのおかげで舞台は大成功だったのではないかな、と自負しています。終演後、批評家の先生方のお話を伺いました。舞台の中身については、うらわ先生の記事を転載しました。そしてもう一つ、先生方が共通しておっしゃったことは、客層の厚さです。踊り関係者はもちろん、そうでない人たちがこんなにたくさん観に来ていたことはい、と言っていたいただきました。どうぞこれからも会場に足をお運び下さい。ありがとうございました。

がくやでまっ時間が長かったので まつのが少しいへんでした。出る時は少しきんちょうしました。でもじょうずにおどれたと思います。はっぴょう会もがんばります。
わたなべ草へい (小2)
さいしょはどきどきしたけど しろいまくのうしろでわくわくして できたらおきゃくさんがいっぱいひびくりました
もりぐちなつき (小1)
がくやこいたおねえさんといっしょにあそんでたのしかった どうよびのれんしゅうがなくなっちゃって さみしいです
わたなべなこ (年長)

派手でも、流暢でもないが、独特のスタイルで社会へ発信を続けている藤田佳代舞踊研究所。積極的にメンバーに創作活動の場を与えているのもこの特徴である。さらに、基本的なスタイルにいろいろな試みを加えるために、あえて実験劇場と名付ける。

佳代は二作品、一つは障害をもちながらつねに観客に強い感動を与えている安田蓮美のための『ハスミ in Autumn』。彼女は豊かな秋から厳しい冬に向かって揺れる心を、ときにソロで、ときに落ち葉役の菊本千永らを交えて、しっかりと踊り抜いた。もう一作は藤田の基本テーマである、生の貴重さを様々な側面から表現しようとする作品、『ひびく』。丹生ナオミの作曲、ピアノ演奏で、人間の根元を思わせる彼女が、芯として生と死、光明と暗黒を示す白と黒の群舞、そして未来を暗示する子供たちに囲まれ、全員の静かな動きの連鎖の中に深い命の力を創り出す。

団員もそれぞれ作品を発表。藤田のスタイルの直系ともいえる寺井美津子は、近藤ヒロミの演奏するアフリカ楽器との共演で内面の熱い思いを表した『埋み火』。藤田のスタイルの上に個性や新しさを取り入れようとしている幹部たちも。金沢景子は焦燥と平静を動きとボウズの組み合わせで表現したソロ『おどり場』。菊本千永は色とりどりの四人のダンサーの複雑な関係の中に記憶の想起と剥離を描いた『memories』。かじのり子は菊本とのデュオで、正と反、真と疑の関係を明らかにしようとした『コピー』。それに続く向井華奈子は具体性ある人間像を描いた『満ちる刻』。灰谷留理子は平瀬信勝との『残された記憶』で愛の軌跡をと、ともに新しいスタイルに挑戦。鎌倉亜矢子も『stargazer』で、従来と違った面を見せた。初作舞の萩原陽子は『キツネノヨメイリ』。自身と群舞との関係で、意外性のある展開のなかで象徴的な意味を浮かび上がらせ、藤田一門の姿勢を見せた。

うらわまこと 週間オン★ステージ新聞2008年4月18日号より転載

第2回こうべ洋舞トライアルステージ

3月26日神戸文化中ホール 「光射すほうへ」 振付 かじのり子 出演 西津華世

春休みこどもアートフェスティバル ゆめのはこ2008

3月30日 兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー西館

「おどり場」 「memories」 「満ちる刻—マッチ売りの少女の場合」 「コピー」

「キツネノヨメイリ」 「Stargazer」 「ハスミ in Autumn」

「トモアツのピアノにのってダンス・ダンス・ダンス」 「ハスミとみんなと全部抱きしめて」

第21回こうべ全国洋舞コンクール

4月26日 神戸文化中ホール

「満ちる刻—マッチ売りの少女の場合」 作舞・出演 向井華奈子

「コピー」 (創作部門奨励賞) 作舞 かじのり子 出演 菊本千永 かじのり子

ひめじ菓子博 白鷺城フェスティバル in PEACE

4月29日 姫路城三の丸広場 「cuddle me」 作舞・出演 菊本千永

今後の予定

ピッコロフェスティバル 8月17日(日) ピッコロシアター 「夕景」 作舞 向井華奈子 出演 西田梨緒 平岡愛理 山下真奈 姜未喜 向井華奈子
「雨の奏」 作舞・出演 長谷川千夏 仲間くみ子 名田麻希子 萩原陽子 梁河茜

ダンスブーケ 8月24日(日) 本部スタジオ

関西音楽舞踊協会創立40周年記念コンサート 9月14日(日) 松方ホール

「黒と白のエチュード」 作舞 藤田佳代 出演 寺井美津子 金沢景子 かじのり子 向井華奈子 灰谷留理子

ふれあいの祭典 10月5日(日) 国際会館こくさいホール 「白い花咲いたよ」

・ただそこに在りゆうぐれの月見草 ・レジスタンス心は誰のものでもない ・間違いない間違いとおせ桐の花 ・ガム幾万吐き捨てられて沖縄よ

・曼珠沙華視野いっぱい梅である ・この罪をどひ超えたくてバツ飛び (藤田作品) ・白い花咲いたよ白い花散った (藤田作品) 時美新子川柳より

作舞 藤田佳代 出演 寺井美津子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 灰谷留理子 萩原陽子 仲間くみ子 梁河茜 西田梨緒 田中彩加

菊本千永モダンダンスステージⅢ 11月22日(土) 県民小劇場

第31回藤田佳代舞踊研究所発表会 10月26日(日) 神戸文化大ホール

5月から発表会の振付にはいりました。みんな大張り切りです。今年のお話は「クスノキのカンタービレ」と「わたしは今日も空を見た」です。

「クスノキのカンタービレ」

クスノキを見上げると歌うように(カンタービレ)枝をゆすつたり 葉を震わせてたり 踊るように枝をはねあげたり 葉をひるがえしたりします 歌うように 踊るように 楽しげにいらしているクスノキを踊りにしようと思います

一本のクスノキにどれぐらいの生き物が集まってくるのでしょうか 数えてみてください そして人間が一本のクスノキを切ってしまったらどれだけの生き物に迷惑をかけるのか 考えてください

踊りは 0008年 クスノキの精が大地の神さまからナイトのヘビを授かることから始まり 2008年の冬 春 初夏 夏 秋 そして4008年の冬 早春の7章にかけて創ります クスノキの精(ホワイトフェザー) ヘビ(ラー)のカップルがお話を進めます 季節ごとの風があらわれて クスノキに集まってくる生き物たちを連れてきます

雪や雨がもう一度雪や雨になるのにおおよそ2000年かかるとして だから2008年秋のあとは4008年の冬にしました 2008年に降った雪がまた雪になって帰ってきてくれる と考えるとちょっとうれいでしょう 2000年後 きっとクスノキも生きていますよ

クスノキの精ホワイトフェザーも ヘビのラーも脱皮を繰り返して生きていますよ

「わたしは今日も空を見た」

みどりちゃんは朝起きたらまず空を見上げています なにか空からの信号はないかと 金色の印が空に現れていると その夜は月からエレベーターのような光の束が降りてきて みどりを月まで一瞬のうちに引き上げてくれます

「いらっしやい」と出迎えてくれるのは 地球に住めなくなった魔女たちです みどりにはとても親切で 夜空に輝いている星たちをつないで 星座のお話をしてくれます 発表会では10月に魔女たちから聞いたお話を披露いたします 魔女たちは もう絶滅してしまった ニホンオオカミとトキの2つの星座をつくらうとしています みどりも 日本で絶滅した生き物をずっと人に覚えておいてもらいたいのので魔女たちといっしょに星座を作ろうと考えています

ニホンオオカミ座 トキ座 できるかな

でも どうして 何が原因で ニホンオオカミとトキは絶滅してしまったのかわかりません まさか 人間がつかまえて食べたんじゃないでしょうね

そして どうして 地球に住めなくなったのかな 魔女たちは

今回、卒業生のみなさんに発表会の思い出を語っていただきました。

発表会当日。ある時は一楽屋入りしてさで着替えようとカバンを開けると…衣装が入っていない! どうしよう?! またある時は一いよいよ幕は上がり、ライトを浴びて舞台上に立ってはいるのに…「振り」を全く覚えていない! どうしよう?! 今だに見るんです、こんな夢を。何度も何度も、パターンを変えて。最後に舞台上に立ってから、かれこれ10数年が経とうというのに。その夢たちは、いつもあまりに鮮明で、今ではそれは夢だったのか、それとも実際に発表会当日に起こった「苦い思い出」だったのか…それさえもあやふやに思ってしまうほどなんです。何が原因にそんな夢を見せ続けるのか…それは「舞台上立つ」ということが何年経っても消え去らないほどの「プレッシャー」を与えるものだ、ということに他ならないのではないのでしょうか? でも、4歳から、20年近くにわたって、そんなことを繰り返してきたからこそ、今の「図太く」「何事にも簡単には動かない」ツヨい(と、本人は思っている)私があるのではないのでしょうか? 今さらながら、ですが私を育ててくれた、舞台に、そして何よりそこに私を導いてくれた佳代先生に、心から感謝、です。ああ、それにしても、こんなことを書き綴った今夜も…見るんだろうな、また、あの夢を…。 篠原登子

私の初舞台20年前でした。

全く覚えていませんが、写真を見ても可愛くなさすぎて、びっくりです(笑)ただ綺麗な衣装が着たいと思ったところから始まったのですが…ずっとパンツ系の衣装ばかりで…ただをこねて二回ロングドレスを着せてもらったのが思い出です。最近の発表会で楽屋に行くと、小さい子の衣装がとても可愛くて羨ましいです。毎年みんな大きくなっていて、気付けば高校生とか大学生とか…びっくりです。私もジャンプは違いますが、踊り続けていて沢山の人と出会い色々な事を得ました。みんな一つ一つの物を作ると言うのは貴重だと思います。若い子達も、これから踊りを通して色々大切な事を学んでほしいと思います。 中川 舞

マイナス5kg!! 毎年これが私の発表会までの目標になってました。3kgまで割減調に減ってくれるのですが、そこから落ちなくて。いっぱい練習して、汗もかいて、いよいよ発表会当日です。体重は目標達成でき、ウキウキ気分でお化粧してリハーサルを終え、あとは本番をむかえるだけ。待ち時間は楽屋でみんなとお喋りしながらおこぎりをムシャムシャ。お菓子をポリポリ。本番では「痩せた私を見て!」と言わんばかりに舞台上をドシドシと走り回り、満足気な顔でポーズまできめていました。しかし、家に帰って体重計にのってみると何故か増えているではないですか。「ああ、はずかしい。」反省しながらも毎年同じ事を繰り返す私なのでした。 岸野 心

そもそも私がバレエをはじめた単純な理由。。発表会の時の素敵なお衣装を身にまといたくて・・・小学生の私はそんな思いでバレエをはじめた気がします。ジュニア科に入ってからはずっとモダンダンスにのめり込みました。佳代先生に発表会で踊る曲をダビングしてもらい家でドタバタ踊っていた事を思い出します。

私にとって一番、思い出にある発表会は『空を翔ける天馬』・『森のおばあさんがね・・・』と言う舞台です。(もう何十年前なんだろう・・・笑)

『空を翔ける天馬』は佳代先生の想う天馬への想いを聞き、心から踊ろうと幼心に一生懸命踊った記憶があります。もう一つ『森のおばあさんがね・・・』は佳代先生にこう言われました。「舞台の端から端までこの音で踊ってみて・・・」私の中の作品は多分そこにありました。自分で思い、考えた動き、気持ちをその舞台で表現出来た!!! ←か、どうかはさておき自分には満足な発表会となりました。

そして今、想う事・・・私には母がいませんでした。今、母になり娘・息子が出来、改めて思う事は、『発表会の衣装って・・・??』あれ?? みんなお母様が作ってくれたり手直ししてくれたりしていると思いますが、私の場合には母が居なかった・・・恐らく先生方が何も言わず私の衣装を作ってくれていたんだな〜と思うとホントに嬉しくて感謝の気持ちでいっぱいです。佳代先生・美津子先生・景子先生・・・ホントにホントにありがとうございます。

追伸・・・私の子供の頃の夢は『バレエの先生!』でした。でもそうではなかったんだと・・・私の夢は『先生のような人間になりたい』と大人になって気付く今日この頃です。 瀬良垣(玉城) 貴子

県民小劇場へ(編集後記にかえて)

1994年2月13日。第一回目の創作実験劇場。私にとってはメモリアルな日付です。自分たちの踊りを創ってその会ができる、というのでとても張り切っていました。実験劇場は前日から大雪が降り続いていました。私など山から下りてこれなかったら困る、と友達の家泊めてもらったほどでした。今でこそそれはおひは県小(県民小劇場のこと。以下県小)がどんなところかよく知っているのですが、用意にしても、空調のことにしても対処はできるのですが、当時の私たちには不慣れな劇場でした。いえ、まさかこんな劇場があるなんて思っていなかったのです。雪の中劇場に到着して震え上がりました。暖房は? 県小では暖房は朝一番からとにかく着けなければなりません。それは前もって暖房のスイッチ入れておいて下さい、とお願ひしておかなければならなかったのです。全く効いてこない暖房の中、たいして防寒具ももっていませんでした。コートを着たままメイクしました。後は、せまい劇場の中を走って暖をとりました。過酷な県小は、今でも、楽屋から舞台へ降りていくのに勇気がいります。がんばらん暖房を朝の一番からつけていても、舞台から冷たい風が吹き上げてくるのです。いまでもそうなのですから、あのときの寒さときたら!! プログラムの最初は私の作品でした。無知な私は衣装にジャンプスーツ(レオタードが足までつながつているもの)を選んでいました。一ベルが鳴って舞台に待機して、幕が開くまでの間の長く寒かったこと。早く踊らせてくれ〜と、心の底からの叫びが出演者の間からもれていました。そして、踊り終わって戻ってくると、佳代先生が楽屋に入ってきて「お客さんがみなさん、コート着てはるんやけど・・・どうしよう。そう、暖房は間に合わず客席も非常に寒かったそうです。でも、おきやくさまは寒さを理由に帰ることはせず、最後まで耐えて下さいました。最後にアンコールももらったのはこのときが最初で最後でした(催促しているわけではない)。おきやくさまもやけくそだったのでしょうか・・・いえ、あの寒さの中だったからこそその一体感ではないかと今でも思っています。過酷で、思い出のつまったホームグラウンド。県小での舞台もあと2回。 菊本千永